

令和5年度 第1回教育課程編成委員会

日 時：令和5年9月29日（金）20：00～20：50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：長尾 博，松本逸郎，小林小夜子，有福浩二，大坪 建

淡野義長，韋 傳春，岩永隆之，林勇一郎，山内 満，荒木一博

司 会：韋 傳春

1. 出席者紹介

2. 校長挨拶

・入試の状況報告

総合型選抜入試は終了し PT4 名，OT1 名の入学が確定している。

オープンキャンパス等のアンケートから，PT 学科と OT 学科の志望者数を把握している。PT 学科は定員に近いが，OT 学科はまだ不足しており，どちらでもないという方に OT を勧める予定である。18 歳人口の減少や進路決定の早期化などの課題があるが，関係者の協力のもとで入学者を増やしたいと考えている。

3. 前回会議後の報告

- ・前期終了時点で休学者 5 名，退学者 6 名が出ており，昨年よりも増加している。
- ・休学者、退学者の理由には心の病気が多くみられた。
- ・再試験に遅刻し受験できずに退学に至ったケースもある。
- ・11 名中 8 名の理由は昨年と違う傾向というところ考えると，防げる可能性はあると思う。

4. 開会

当委員会第 6 条の規定による出席数を満たしており，本委員会は適切に成立していること確認する。

5. 委員長選出

委員長は，淡野義長校長で進めさせて頂く。

6. 審議事項

林) 令和5年度の1年生の成績状況と「スキルアップデイ」の実施について

- ・成績不振者や退学者を減らすために，前期は「スキルアップデイ」という補習授業を実施した。
- ・前期の定期試験の結果では作業療法学科と理学療法学科の成績の二極化が見られた。
- ・今年度の OT は A 判定領域に集中した集団が見られ，PT は C 判定領域に多い集団がある。また不合格に値するところの集団や一段と低い点数のものもいる状況である。
- ・スキルアップデイの効果や学生の感想をアンケートで調査し，ほとんどの学生が教員の関わりや意欲向上に満足している。しかし後期も実施してほしいと思った学生は半分以下であり，前期の反省点を考える必要がある。
- ・PT と OT の学生からスキルアップに関する自由記載による意見を集めた。肯定的な意見が多かったが否定的な意見もあった。
- ・自由記載の意見をテキスト解析した結果，「先生」「教える」「聞ける」「有意義」などのキーワードが肯定的な要素として現れた。また，「友達と一緒に」「勉強」「テスト」「骨」などのキーワード

ードが成功体験と関連していた。一方、「思う」「理解」「参加」「欠課」などのキーワードが否定的な要素として現れた。

- ・後期の計画として補習を含む時間割を google カレンダーで管理し、計画的に実施する。また教員の関わり方や小グループの学習効果を意識する。補習を全ての学年に広げ対応していく。

松本) スキルアップデイで取り組まれた具体的な内容はどのようなものか。

林) 解剖学の骨学の点数を取れるようにするために PT, OT を各 6 グループに分けた。そのグループに各 1 体の骨模型を置き授業の振り返りをしてもらった。また学習の際は、黙々とノートに書くのではなく、声を出して、模型を使ってアウトプットするようにさせた。そのやり方を覚えてくると学生同士でも単語帳に骨の名前を書き出して答え合わせするようになった。

大坪) スキルアップデイの実施時間はいつなのか。授業外で実施されているものなのか。

林) 14 時 45 分から 16 時 15 分の 4 限目の時間帯で実施した。しかし授業外であるため時間割上、科目名もなく補習という形で行っているため、学生の言うように補習なのに「帰るな」と伝えていることが学生の不満なのだろうと思う。

大坪) 職場でも同様だが、業務時間内の勉強会であれば参加する人が多いが、業務時間外になると、何らかの理由をつけて参加したがりない人が結構多い。時間外でも自分のために勉強するというのが当たり前だった頃からすると考え方が変わってきている。授業の一環として、できるようになれば、学生の印象はもう少し変わるのではないかと思う。

林) 科目名としても挙げることはできないが、google カレンダーなどに予定表を提示し、時間割のような形で後期から実施していこうと考えている。また放課後ではなく 4 時限目が空いている枠に実施したいと考えている。

長尾) 成績のグラフで気になったのは、これまで経年的にみてきた中で、成績は従来、PT の方が良かったが、今回 OT が良くなったというのは、これから入学してくる学生の方針に影響する。PT は人気があり幅広いレベルの方が入ってくる。一方で OT は少ない。ということは推測ではあるが、本当にやる気がある人がきている可能性がある。そういうことを考えて今後の入試対策とかを考える必要がある。スキルアップについては学生には突然ではなく、あることを前提にやり方を継続していくことが良いと思う。日本人と欧米の学生の違いとして、勉強は、自発的に自分の主体性を持ってやるというのが、小さい頃からの躰であるが、先生から教わるとか、受け身的な要素がグラフの中に出ている。つまり先生に頼っている状況がみられる。第 2 点目は、今の小学校ぐらいではグループ学習ばかりやっており慣れているので、勉強ではグループが好きだという特徴がみられる。これは活かした方が良い。3 点目に不登校などの心の問題の人が増えているのは、全てではないが、「自己肯定感がない」「達成感がない」ということも影響している。この結果にある「褒められて達成感が出てきた」ということは自信を生み出すことにつながるので有意義であると思う。文部科学省の方針で小さい時から「自ら考える」という教育方法にシフトしてきてはいるが、まだ先生から取り入れて受け身的に勉強するという考えが非常に強い感じがしている。「自分たちで考えてやってみる」ということも、これから大事になり、褒めて育てる必要性を感じる。

最後に相関のことについて、国語力テストとの相関が高い場合は理解力との関係がある。そのような視点でみると令和 4 年度の OT 学科の前期試験との相関は非常に高い。この時の学生はやる気というものが非常に大きかったが、正しい理解力はあまりなかったということが伺える。今後これ

を行うとしたら、入試前試験はやる気、国語力テストは理解力を示す参考になると思われる。

有福) スキルアップは他の学年にどのような形で広げていくのか。

林) 始めたきっかけは、ある大学が偏差値の低い学生の合格率を上げるために取り組んだ内容を参考にしたことであった。そのポイントである初学年時に全教員がしっかりと関わるということを取り入れた。本校も初学年次、退学者も多く1年生にしっかりと手をかけようと始めたが、ただ1年生だけでなく2年生や3年生にも必要だと感じている。この先の理想ではあるが、3年生は国家試験が近づいているが、例えば基礎的な内容は1年生と共通する内容もあるので、3年生に1年生も参加できるような感じにして先輩後輩の繋がりを作るのも良いのではと思っている。先ず後期は全学年対象で実施する方針で、1年生が火曜日、2年生が水曜日、3年生は随時行う予定である。

小林) スキルアップデイを取り入れて結果が出ていることや今回のテキスト分析も含めて良い内容だと感じている。最近はどこかの大学においてもスキルアップをしていかないといけないような状況にあると思う。私共のところでも定期的に資格検定というものがあるが、スキルアップを行うことで驚くほど成績が伸びた。そのようなことを取り入れていかないと、できないのだということを実感している。一方で専門学校や大学とかでやり直す前に、もっと手前の教育で行うべきことも多いのではないかとひしひしと感じている。

韋) スキルアップデイというのは、そこで知識を新たに得るというよりは、学習の仕方を周りから学ぶ意味合いがある。これを進めていくと、成績の棒グラフが点数の高いほうへ寄っていくだろうと考えるが、一方で不合格領域に囲われているグループは、なかなか動かないのではないと思う。そこにいる学生の様子をスキルアップデイの時に見ていたが、その場にはいても集中していなかったり、一緒に取り組めていない様子もある。この方法では変化しない集団なのかもしれない。

林) 前回の会議の時に出したデータと同様に60点付近の学生たちは高いほうへ移動していくが、それよりも下位のグループは残って、国家試験に不合格だったり、退学か休学になるパターンがある。残念なのは意欲もなく、成績も伸びず、ずっと居続ける状態かもしれない。本当は方向変換が必要なのかもしれない。

長尾) 私の主観では、大体こういう学生たちは入学以前の学習能力に問題がある。リメディアル教育として大学で相当やっているが、効果としては少し能力がある人をさらに伸ばすということができるが、それに至らない方々はどうするかというのは大きな課題であり別問題である。

前述の休学や退学者の11名もこれに近いのか。純粋に心の問題を持っているから休学しているのか、それと成績不振の問題からなのか。

林) 一部は成績不振もいるが、そうでないものが多い。

長尾) 退学、休学を防ぐ1つの対応策としては、学習というのは除外して考えて良いと思う。

林) 先ほどの報告の通り学力とは違う因子の理由が今年度は多かったように感じる。

長尾) 休学の場合は健康になったら戻るわけで、経営上問題ないが、治らないような相当な慢性の病気であれば退学の可能性が高いため、そういう学生が増えてきたら考えなければいけない。

松本) 今年の1年生の前期再試験における合格率が非常に高かった。その理由にはスキルアップデイの効果もあるのか。

林) スキルアップのほかに、定期試験後に振り返りの時間を設けた。試験期間終わった翌週に2日間かけて、時間割を提示し振り返りを行い全教員関わったところが影響していると感じている。

松本) 合否判定をする時、規則では 60 点以上ではあるが点数でない印象がある。再試験では 100 点に近いぐらいの学生が何人も出てきた。まだ火種があるところをどこかで拾っていきけるような別の取り組みがあれば良い。

林) それが職業イメージなのか。社会に出るっていう不安を解消するものなのかわからないが別の因子で見ていくことも大切だと思う。しかし年度単位で学生の特徴の違いもあり難しい面もある。

小林) 別の要因として、私どもの学校では 18 歳で入学してくるものが多い学年と、30 歳を超えるような学生がいるような年齢のばらつきがある学年とでは集団の形成の仕方が違うように感じる。学年で波がある 1 つの要因に“年齢のばらつき”があると思う。社会に出て経験している人が集団の中にある程度いると、18 歳年齢よりもいろんなことを知識として得ているところが良い方向に行っているような感じがしている。

林) 昨年の 1 年生は PT 学科が開校して以来、初めて全員現役であった。客観性はないが社会人経験のある学生がクラスにいるのといないのでは違う印象を受けている。現役ばかりだとリーダーシップが取れないというか、教員側の意見を組み込んでくれる学生がいらないことは多少影響があると思う。

松本) 同じような経験で言うと准看護の学校に関わっているが、その中に社会経験のある男子学生が結構いる。社会的に揉まれてきた学生たちは成績が良い。そういう比率が多いクラスは熱心でモチベーションが高いグループになる。

韋) スキルアップで 1 年間通した結果をまた次の会議で報告させていただきたい。

7. 総評

校長) 3 年間の短い期間における教育なので早めに結果を出す必要がある。今の学力水準の学生たちをみるとスタートが肝心だということで、1 年生前期の重要性を前から思っていた。また学習習慣も身につけていない中でグループ学習という方法論は以前よりも増えてはきたが、学習の仕方のバランスが重要だとも感じる。今回このような意見交換ができ少しでも良い結果が出せたらと思う。グループワークとしてのスキルアップや下位層への個別指導を含めて検討していきたい。

8. 謝辞

校長) 今後も継続して行う結果を 3 月に楽しみにして頂ければ幸いである。

9. 閉会

韋) これを持ちまして第 1 回教育課程編成委員会を閉会する。

次回の教育課程編成委員会は令和 6 年 3 月 29 日 (金) 20:00 を予定する。